「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」ニュース　１３７号　　２０２４．６．４

ジュラーヴリ

ЖУРАВЛЬ

繰り返さないで！チェルノブイリ・フクシマ
チェルノブイリ原発事故 38 年の集い
地震大国日本に原発はいらない！

ドーンセンター　2024.4.21

昔は「災害は忘れた頃にやって来る」と言われていましたが、「忘れる間もなく次々と」地震が起こる現在の日本です。元日の能登半島地震の報に、みなさん「珠洲に原発ができてなくてよかった」「志賀原発が停止中だったのが、不幸中の幸い」と思われたのではないでしょうか。

今回は、東電が再稼働を画策している柏崎刈羽原発のある新潟県からゲストをお招きし、「地震大国日本に原発はいらない！」をテーマに春の集いを持ちました。

最初に、＜救援関西＞代表の山科和子さんのご逝去（3 月 13 日）の報告があり、山科さんのご冥福を祈ると共に多くの核被害者に黙とうを捧げました。

事務局からは、「これ以上ヒバクシャをつくらないで」という山科さんの遺志を継ぎ、放射能被害も戦争もない世界の実現に向けて取組みを続けてゆく所存。これからの活動計画としては、今年はビキニ 70 年、来年はヒロシマ・ナガサキ 80 年、再来年はチェルノブイリ 40 年・フクシマ 15 年という一連の節目の年をつないで、核被害の実相を見据え、ヒバクシャと共にこれ以上の核被害の拡大を許さない活動と被害者の人権・補償の確立を目指す取組みを行ってゆきたい。会員や参加者みなさんのご協力をよろしくお願いしますとの呼びかけがなされました。

続いて、**ゲストスピーカーの近藤正道さん**のお話。新潟における長きにわたる反原発活動の経過を聞き、多くの方々の頑張りが巻原発を止め、その後も活発な取組みが展開されてきているのがわかりました。現在、柏崎刈羽原発再稼働阻止の闘いが天王山を迎え「市民検証委員会」の立上げなど嬉しい情報もありま

した。近藤さんの前向きなお話振りに頼もしさを感じました。（多岐にわたるお話の記録は３ページに掲載。是非お読みください！）

休憩の後は**アカリトバリさん**の歌と演奏。「春を待つ海」という新曲と「チェルノブイリの子ども達」を歌ってくださいました。「春を待つ海」は昨年の川島秀一さんの講演と著書「春を待つ海」にインスピレーションを得て、本に登場する福島県新地町の漁師の小野春雄さんからも聞き取りをして作られた歌です。波音の擬音付きで素敵でした。日本語＆ベラルーシ語の「チェルノブイリの子ども達」は徐々にお馴染みの曲になりつつあります。またしても「アカリトバリさんの CD 制作を」というリクエストをいただき「そうだよね～　この歌をできるだけ多くの方に聞いていただきたいな」と思いました。（が、ＣＤ制作って、どうすればいいの？）

次に、**＜若狭連帯行動ネットワーク・資料室長＞の長澤啓行さん**から「能登半島地震について」コメント。

元日の地震で、能登半島は壊滅的な被害を受け、震源から少し離れた志賀原発の内部でも亀裂が発生。長澤さんは地震２か月後に（おそらくその間に隠された部分があるだろうけれど）社民党視察団に同行して原発構内の被害の実態を視察してこられました。

今回の地震は志賀原発で想定されていた活断層 96 ㎞をはるかに超える 150 ㎞の海底断層が連動したものと思われる。断層評価がこのままでよいのか問われる事例である。また、震源地に計画があった珠洲原発の建設が実現していたら、福島級の事故になっただろうとも言われた。

そして、孤立地域の報告が巧みに操作されて、過小数値で発表されている欺瞞を詳しく説明してくださった。多くの住民が孤立状態にあったのに、数値のトリックで誤魔化しがあった。これは、原発事故発生時の避難計画に大いに関わる問題で、計画は普段のように道が通行でき、必要とあらば船やヘリコプターが利用できるという前提で作られているが、今回、孤立住民の救助が２週間以上も後になったところがあり、避難計画は単なる絵に描いた餅でしかないことが露呈した。

北陸電力からの情報も中途半端で頼りなく、事実関係がきちんと伝わっていないことにも不信感を持ったということです。

地震が起こるたびに「原発は大丈夫か？」と心配し続けなければならない日本に住む私たち。本当に「地震大国」としての「大国意識」を国や電力がしっかりと持ってほしいと思ったことです。

最後に、**＜若狭ネット＞の久保きよ子さん**が、和歌山の原発計画に対して＜日高原発に反対する大阪の会＞として活動した経験を珠洲に伝えるべく、当時現地で原発建設反対運動を展開していた方々と交流した体験を話してくださいました。珠洲市で活動された泉滋子さんの著書「鳥ではないから」を紹介し、現地を訪れた時の写真を示しながら、特に女性が頑張った反対運動について熱く語ってくださいました。(写真(p17)の久保さん若い！)

また、地震当時の泉さんご夫妻の被害状況や、ケガはされたが避難所に行きその後の経過についてなど、筆まめな滋子さんからのお手紙の内容を伝えてくださいました。

盛りだくさんな内容で充実した集いでした。私は新潟の方からお話を聞くのは初めてで、各地で頑張る方々に励まされます。参加者のみなさんどう受け止められたでしょうか。　　（田中あ）

［お話］　　地震大国日本に原発はいらない
～柏崎刈羽原発反対運動を軸に～

近藤正道さん（弁護士・柏崎刈羽原発運転差止訴訟弁護団）

首都圏の電気を賄うために、管外の福島県に福島第一と第二。そして新潟県に世界最大の 7 機の原発を作った。新潟はこの頃あまり使われていないですけども、裏日本と言われた。越の国ですよ。

昔から、越前・越中・越後は、越の国とも言われた。越の国は、太平洋側から見ると、全部裏日本です。明治以降、日本が近代化する中で、労働力だとか、或いはエネルギーをですね、表日本の方に集中させたために、痩せ細っていった。そして、原発を押し付けられた。そういう宿命を負ってきたんですけれども、私どもは、そういう裏とか、表とかいう関係性そのものをひっくり返していきたいという思いもありまして、原発反対に取り組んできたと、そう私は思っています。冒頭、そういう思いもあり、越前、若狭の原発反対運動を応援している皆さんに、ぜひ、越の国のもう一方のはずれの、越後の原発の反対運動の話を知っていただきたいと、お話させていただきたいと思います。

１．巻原発反対運動

≪敷地内に土地を確保≫

時系列で言いますと、柏崎刈羽原発の方がいわば長男。巻原発の方が次男、なんですけれども。巻原発は、早くに、白紙撤回させるという形で決着をしましたので、最初に巻原発の話をさせていただきたいと思います。今映っているのは、巻と柏崎の絵です。右側の写真は、巻原発が起こった時に、全国に呼び掛けて、反対運動、大抗議行動をやった時の写真です。巻というのは、2～3 万人くらいの人口があるんですが、ここに全国からびっしり人が集まって、反対の声を上げました。一方、柏崎はこういう大衆運動をばんばんやったんですが、巻の場合はちょっと違っておりました。

巻町周辺図と各地への距離

巻の場合は、東北電力の原発敷地の中心部分にですね、反対派が土地（50 坪）を確保したんです。これは、青年たちが足しげく原発予定地である海岸の集落にビラ入れをしている中で、「阿部五郎次」という方がですね、「自分はまもなく死ぬけれども、自分の土地を是非反対運動に利用してくれ」と、「もしかするとこの土地は海の中かもしれな

街中を行進するデモ隊　先頭は地主金の皆さん（1981年8月28日）

い、しかし陸にあるかもしれないから調べて、もし使えるんなら使ってくれ」と、それを反対派の人たちに譲ってくれまして、そして、亡くなったんです。そのあと調べてみたら、海の中ではなくて、波打ち際から 50 メートルくらい中に入った所にあったんです。ということで、これを原発反対の「共有地」と称して、この上に団結浜茶屋を建てて、これを拠点にずっと頑張りました。

そのうち、町民の皆さんが、しだいに反対の声を上げるようになって、巻町のことは、巻町で決める、町民が決めるべきだ、住民投票で決着しよう、こういう声がおこりました。勿論、町は、そんなことを認めるわけがない。そこで、巻の皆さんは、自主的に「自主管理の住民投票」をやったんです。ところが、これが、予想に反して、すごい反響で、多くの人が参加をし、そして、反対の票を投じてくれた。「これはいける」と。町民の皆さんは黙っているけれども、原発イヤなんだという確信を持ちまして。そんなら、議会の多数を取って、住民投票の条例を作ろうじゃないかということで、たくさんの町民の皆さんが議会に出ました。とりわけ、女性の皆さん、活動家の皆さんのお連れ合いたちが出たんです。この時の町会議員選挙で、女性たちが上位 1、2、3 位を独占したことを私は今でも鮮明に覚えています。そういうこともありまして、議会の多数派を取って、とうとう住民投票、原発の可否を住民投票で決めるという条例を作りました。

≪町長選挙に勝ち、住民投票で反対が過半数を制し、最高裁で勝ち、計画を撤回させる（2003 年）≫

そしてその後、町長も反対派が取りました。町長は巻の造り酒屋の専務です。私らと同じ世代です。町長を取って、その上で堂々と条例に基づいて住民投票をやる。これが、60%の原発反対という形で決着、巻の人たちはすごいことやったと、こういうことになるわけです。町中に黄色の原発反対の旗が立って、8 月 4 日の住民投票、これで決めると。で、巻の人たちは、住民投票で過半数を制して、東北電力が撤退したと、世間的にはそう思っているんですけども、現実はそうではなくて、もう一波乱があったんです。東北電力は、「ならば、町村合併をやって、大きな町を作って、住民投票の結果を骨ぬきにしよう」と。或いは、「町長そのものの首をすげ変えてしまおう」と、そういう動きを水面下で始めました。それを察知した反対派は、町長と話をして、町有地というのが実際あるのです、敷地の中に。それを反対派の人たちに売却したんです。それも随意契約で売却をした。推進派の人たちはこれを知って、びっくりし怒った。そんなのは違法だと裁判を起こした。最高裁まで行きましたけれども、最高裁は、町の決定を支持した。つまり、どうして売ったかというと、住民投票で、巻町は原発のない町をめざすということが多数意見になった。従って、町が、町有地を任意売却で反対派に売ったとしても、それは、町の意志としておかしいことではないだろう、という最高裁の決定が出ました。前述の共有地の外に、敷地内の町有地も反対派の手に渡ってしまった。こうした事態を受けて、東北電力は、ついに断念をした。こういういきさつなんです。今、それこそ、さっき、能登半島地震で珠洲原発が無くてよかった、という風に言いますけれども、新潟でも、地震があ

東北電力、原発計画白紙撤回を決める（『新潟日報』2003 年 12 月 19 日）

新潟日報　2003年(平成15年)12月19日(金曜日)

巻原発 白紙撤回へ

町有地訴訟 最高裁 推進派の上告不受理

国計画初の断念

東北電、構想32年

売却手法 違法性なし

「混乱に終止符」は妥当

当然の結果 [illegible]

159　第８章　最高裁の上告不受理と東北電力の撤退

ると、ああ、巻原発なくてよかったねと言っています。で、もう一つが、柏崎刈羽原発です。

［原発の危険性］

≪原発の仕組み≫

で、ここで少しおさらいをしたいと思いますが、原発の仕組みは、核分裂反応。先ほど言いましたように、強烈な熱を出します。同時に、膨大な放射性物質、死の灰を生み出します。柏崎刈羽原発では100万キロワットですから、1年間にこれを稼働させますと、1機の原子炉の中に、広島原爆1千発分くらいの死の灰が溜まります。大変な量ですね。ですから、私は、原発と原爆は双子の兄弟だと。原爆のほうは、一瞬にして核分裂をさせるし、原発の方は、時間をかけて、それこそ、水と電気を使って徐々にやる。それだけの違いで、まさに双子の兄弟だと思っています。

≪水と電気でコントロール、安全の生命綱≫

今も言いましたように、水と電気でとにかくコントロールするわけです。猛烈な熱を出しますんで、蒸発し、それをまた水に戻す、それをポンプでやる。ポンプでやるということは、つまり電気を使うとい事ですね。だから、水と電気、この二つが、決定的に重要で、この二つのうちのどちらか一つでも欠けると、この原発はコントロールを失って、炉心溶融、制御不能の状態になる。

≪止める、冷やす、閉じ込める、そして万一の時の実効性ある避難計画≫

ですから、原発については、とにかく、何か起きた時には、すみやかに原発を止める。そして、止めても崩壊熱が出ますので、それをとにかく冷やす。原子炉を冷やす。そして放射能を中に閉じ込める。止める、冷やす、閉じ込める。これは絶対になくしちゃならない。ちょっとでも欠ければ、アウト、ですね、完全に。同時に、最近ではそれだけではなくて、万一放射能が漏れた時には、安全に逃げることができる避難計画をちゃんと備えなければならない、となっています。どんな立派な客船であっても、船自身は何ともなくても、万一船が遭難した時に、乗客が避難できるように避難ボートを完璧に装備していなけなければならない。あれと同じ理屈で、原子炉そのものの装置が安全だけではダメで、万一の時に、周辺住民がちゃんと逃げる。退避、避難できる。そういうものがきっちり備わって、それが、実効性がある。それがきちんと備わっていないと、原発そのものを安全と言わないというのが、今、世界の常識なんですね。これが揃って初めて、世間は、危険な原発を、まあ、しょうがない、受け入れる、こういうことになるんです。

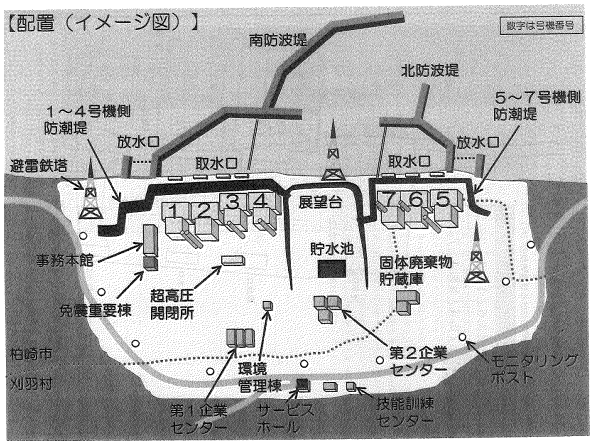
≪福島事故の教訓≫

福島第一原発は、そういうことはできていなかった。そのために、甚大な被害を周辺にまき散らしました。当時の福島原発の所長、あるいは原子力委員会のトップ、そして当時の総理大臣の菅直人さん、その三人が、あの時、間違いなく東日本が壊滅すると腹をくくった。しかし、本当に奇跡としか言いようのないような事が幾つか起こって、あのような程度でいわば済んだ、ということです。そして、福島は今でも緊急事態宣言はまだ解除にならない、解除する目途すら立たないという事なんです。本当に原発というものは危険なんだ。その中でも、一番危険なのは、止める・冷やす・閉じ込める、この三つの機能をきちっと維持させることができるのか、地震が起これば、その機能が失われるのではないか。福島は正にそうだった。そのことが、非常に不安です。日本は地震列島です。柏崎は大丈夫か、とりわけ、

冷やす・閉じ込めるということは、地震のとき機能しないのではないか、こういう風な思いでですね。私たちは反対をずっとしてきました。

２．柏崎刈羽原発反対運動

≪土地買い占め先行、激しい現地闘争があったが、全号機稼働≫



これが柏崎刈羽原発です。1 号、2 号、3、号 4 号、これが柏崎市の側にあります。で、5 号、6 号、7 号は刈羽村の方にあります。ですから、柏崎刈羽原発といいます。この計画が浮上した時はですね、もう、民有地の大部分が、ある人たちによって買い占められていました。ある人たちと言いますと、この柏崎刈羽地域を選挙地盤にしています田中角栄さんです。これはもう、公知の事実でして、田中角栄さんの室町産業、関連会社が、民有地の殆どを買い占めていた。東京電力はこの民有地と、公有地を元に、ここに世界最大の原発集中立地を建てた。田中角栄さんはこの土地を東京電力に売却し、4 億円以上の利益を上げた。当時、秘書がこの 4 億円を東京目白の田中邸に運んだということが、当時の地元新聞に何度も出てくる。こういう状況です。ですから、巻の人たちは、兄貴分の柏崎刈羽原発でこういう経過を学び、何としても土地を確保しなければならないという事で、先ほど説明した、土地の確保、町有地を売らせない、こういう事に神経を徹底的に使ってきたわけです。

柏崎は敷地内に土地を確保できなかった。しかし、柏崎の皆さんは、だからと言って諦めたわけではない。私も弁護団の一人だったんですけれども、公有地の一部には、地域住民の入会地があると主張して、公有地に団結小屋を作ったり、あるいは、保安林の伐採を許さないとか、様々な阻止行動をしました。そのために、逮捕者も出ました。刑事弾圧も受けました。私はその弁護に若い頃、奔走したという経過もあります。そういうことで本当に頑張りました。地域の皆さん、敷地のすぐ隣の荒浜集落では 1 軒 1 票の住民投票をやって、75%の人たちが反対をしたんだけれども、それらを全て無視されて。反対の人たちは、敷地から全部排除されたんです。やむなく地域の人たちは、裁判に訴えるしかない、という事で裁判を闘いました。当初は行政訴訟、原発の設置許可そのものが無効だと行政訴訟を行いましたが、最高裁を含めて全部負けてしまいました。

≪３．１１後、改めて東電相手に運転差止裁判中―「豆腐の上の原発」≫

その後、福島の大事故が起こりまして、また、頑張ろうという事で、今、東京電力を相手に運転差し止めの民事裁判をやっています。

反対の人たち、私もそうなんですけど、最大の論拠にしたのは、柏崎刈羽原発というのは、地盤が悪すぎる。地元では、「豆腐の上の原発」という言葉があります。非常に劣悪な地盤で、ここに原発を作るのは危険だ、地震にとりわけ弱いということなんですね。しかも、当初は地盤の話は殆ど知られていなかったんです。ところがしばらく経ってから、東京電力に土地が売られて、いわゆる電調審といって、この国の電力開発計画の中に計画が組み入れられる。その後、各号機の安全審査が始まるんですけど。安全審査が始まる直前になって「ここの地盤おかしいんじゃないか」という話が出てきた。どこから出てきたかというと、石油関係者からです。石油採掘関係者からそういう話が出てきた。新潟県の柏崎刈羽地域というのは、明治以降、石油の採掘が非常に

盛んな場所でした。日本書紀に「越の国より、燃える土、燃える水」が朝廷に献上されたという文言が出てくるほど、越後の国には、各地に石油が出た。とりわけ柏崎刈羽地域には石油が出て、日本石油という会社がありますけど、あれの初代本社は柏崎です。そういうことで、あの近辺には、石油の採掘の記録がいっぱい残っている。その採掘関係者の中から、あの敷地、その近辺の地層、地盤は非常に劣悪で断層もある。今後動く可能性もある。つまり活断層があるし、何よりも、敷地直下には真殿坂と言う、断層があるはずだ。それ以外にも断層がある。こういう所に原発なんか作っていいのか？という話が出ました。

３．原発と地震・地盤

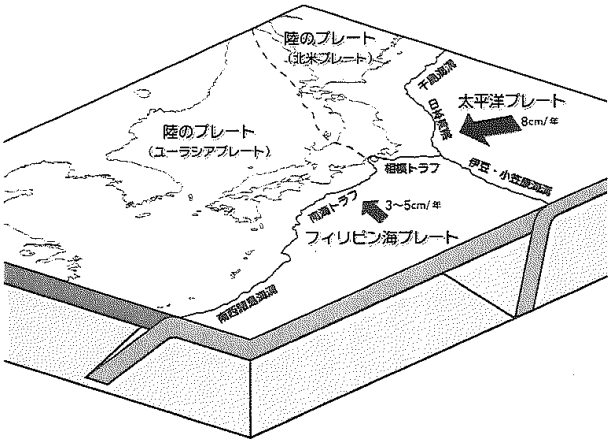
≪日本は世界有数の地震多発地帯≫

学者・研究者の皆さんのアドバイスを受けながら、柏崎で、地盤問題、地盤論争が始まるわけです。しかし、東京電力は住民の指摘をことごとく否定しました。断層なんかないし、あったとしても非常に古いもので、最近は地殻変動なんかない。そして、あなた方の言う断層は全部地滑りだと言って否定をした。残念ながら、裁判所も東電の主張を追認した。こういう状況です。しかし、その後、私たちもいろいろ勉強しました。新潟大学の先生、和光大学の生越先生、その他いろんな皆さんから来ていただき、いろいろ勉強する中で、この、豆腐の上の原発という指摘は、極めてまっとうな、科学的な根拠のある話だ、ということが分かかりました。そしてまた、当時の最新の、今では定説になっております、プレート・テクトニクス。この地球の地表面の変動というものを、プレートのぶつかりあいから説明する、プレート・テクトニクスの理論を学んだり、或いは、日本海の東の端には、歪みの集中帯があるという事も知りました。

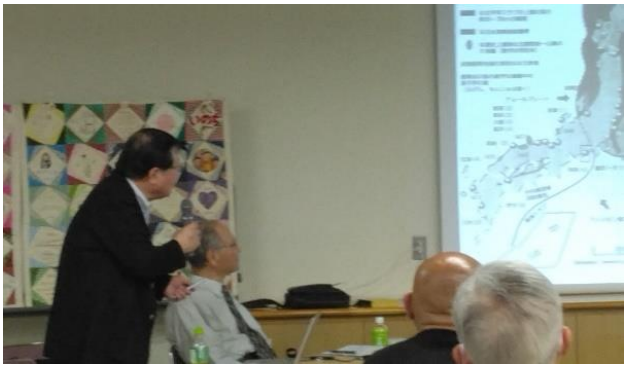
≪日本海東縁変動・歪み集中帯≫

これ、ちょっと見ていただきたいんですけども、日本の周辺は太平洋プレート、今、南海トラフで問題になっていますフィリピンプレート、或いは北の方の北米プレート、ユーラシアプレート、4枚のプレートが押し合い、へし合いしていて、太平洋プレートは陸の北米プレートの下に沈み込んでいるんです。一方で、ユーラシアのプレートは、また日本列島を押している。だから、太平洋側から或いはユーラシア側から日本列島が押される中で、日本海の東縁に、歪みが非常に集中している、そういう説というか、調査結果があるということが分かりました。左の側がいろいろ学術論文に出ているところで、日本列島の北海道、日本

図８　日本列島が乗る４つのプレート



出所：図７に同じ。



海側からずーと佐渡島、ここに能登半島がありますが、この辺にかけて歪みが集中していて、ここに非常に地震が起きやすい。これは国土地理院が作った地図です。これは新潟日報に先日載った図面です。今、皆さんの所に回っていると思います。見ていただきたいと思うんですけど、北海道、そして青森ですね、秋田、山形、新潟、そして能登半島とありますけども、ここが太平洋プレートが沈んで日本列島に非常に歪みが来ている。こっちの方からもプレートを押してきている。ここに変動歪み集中帯と言うのが集中しているんです。私、素人なんでそれ以上言い様がありませんが、ここに昔から地震が本当に沢山起こっている。最近の半世紀だけでも、北海道、奥尻で大被害がありました。あそこにマグニチュード7を超える大地震、津波がありました。そして、日本海の中部地震、これは秋田沖ですけども、ここにもすごい津波、地震がありました。山形沖にも3～4年くらい前にありましたし、私が高校生の時に新潟地震という大きな地震がありました。そして2007 年、中越沖地震、今の柏崎刈羽原発のすぐ向かいで大きな地震ありました。そして、先ほどの中越地震というのがありました。そしてご案内の今回の能登半島。中越沖と一緒に起き、同時に今年1月元旦にも起きた。ずーと、ここ半世紀、この50年の間だけでも何度もこういう地震・津波が起こっている。

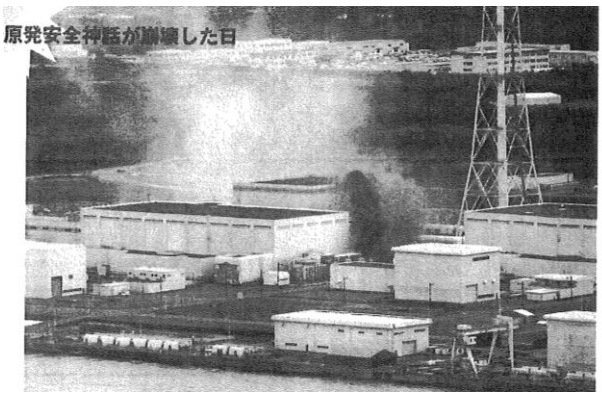
≪豆腐の上の原発―地盤論争≫

まさに柏崎刈羽原発は日本海の東縁、日本海沿いの歪み集中帯のど真ん中にある。だから「豆腐の上の原発」。地盤は豆腐のように劣悪、軟弱。断層の真上に原発が建っているという話は極めて説得力があるし、今回、このあと、長沢先生から話があると思うけど、能登半島からの一連の流れ。これ全部断層ですよ。これが連動する可能性が一挙に現実のものになったということです。で、これだけの事を突き付けられたにも拘わらず、さっきも言いましたように裁判所もこれを認めなかった。そして、東京電力もこれを否定しました。ということですね。これだけの地震がここで起きた。ですから「豆腐の上の原発」だと、私たちは言っているわけです。

４．中越沖地震と柏崎刈羽原発

≪地震が世界で初めて原発を直撃した―柏崎刈羽2・3・4・7号機が運転中≫

結局、こういう事があったんですが、しかし、これを事実を持ってひっくり返したのが2007年。ですから福島の4年前ですね。福島の4年前に起こった中越沖地震です。これは地震が原発を直撃した世界で最初の事故と言われています。左下、これは黒煙を上げる原発です。実は私、この時、参議院議員になったばっかりの時で、新潟市内のある所で会議をやっていました。ものすごい揺れがあって、一時会議は中断したんですけども、また会議が再開したところ、連れ合いから電話がかかってきまして、「何しているんだ。テレビを見ろ」と。「今、柏崎刈羽原発から煙出ている」と。「あんた方何しているんだ、会議なんかしている場合か」と電話が掛かってきまして、テレビをつけたらこういう場面ですね。



◀地震によって火災が発生した柏崎刈羽原発（2007／7／16カッコ内は撮影日、以下同）

ビックリしまして、すぐ仲間と一緒に柏崎刈羽原発に飛んで、中を見さしていただきました。ちょうど、安倍第一次内閣の頃で、安倍晋三さんがどこかに出張をしていて、この地震を見て、たまげてヘリコプターで柏崎に来ました。安倍さんが見るということで、私もうまくその一行の中に紛れ込んで、一緒に原発の中を見させていただきました。もう地割れ、ひび割れ、地面が波打っていましてすごい状況です。そこに写っているのは、実は私なんですけども、1m以上の段差ですよ。ここらへんは全部波打っていました。とても車なんか、今東京電力は、何か起こった時には電源車とかいろんなものを待機させて、そこに集中して投入するとか言ってますけど、構内は車が走れるような状況ではない。中越沖の時はこういう形で事故の当日、中に入れた。翌日、私はもう一回、福島瑞穂さんと入りました。で、東京電力はこういうのは許したんだけども、今回の北陸電力は志賀原発構内に入るのを認めてくれたのは地震から二か月後ですよ。だから本当に態度悪いというか、あの時に、議員なんかいっぱい入れてね、失敗したという反省から今そういうことをやっているのか分かりませんけども、そういう状況でした。

≪東電は海底断層を見落とし、基準地震動を過小評価≫

で、もう一回、中越沖地震を確認していただきたいと思うんですけども、福島大事故の 4 年前ですね、規模としてはマグニチュード 6.8 ですから、中の上くらいで巨大地震ではない。しかし、原発のすぐ近くが震源だということですね、これだけの被害が出ました。震源は原発の沖合20ｋｍくらい先の、海の底なんです。これは柏崎刈羽原発の安全審査の時には一切出てない。つまり、東京電力はこの中越沖地震を起こした海底断層を当時見落としていたんですよ。しかもひどいことには、見落として、これなしで審査をした。地震なんてありませんよと通していた。その後で、中越地震の後に、彼らはこれはやはり断層だ。活断層だと言うことが分かったんです。分かったにも関わらずそれを公表しなかったんです。中越沖地震が起きてから、これを公表した。東京電力ってね、いつでもそういうやり方をする。そして、揺れ、基準地震動というのが、これは後で問題になりますが、基準地震動は、当時、東電は海底断層を全部無視していましたから、基本的には300 ガル。加速度 300 ガルの揺れだ。技術的にはあり得ないけども、まあ、あえて言えば 450 ガル、これが限度だと。それに耐えられる原発を作っているから大丈夫だと、こう言っていましたけども、なんとこの時は 1699 ガル。想定の３倍か４倍の揺れだったんです。しかも基準地震動の超過、これは柏崎刈羽だけでなく、その後、ほかの所で何度も起こっている。だからこのくらいの揺れが最大だよ。その最大の揺れに対応して作っているから大丈夫だよ、なんて言う電力会社の説明なんて非常に当てにならない。そもそも、地震の規模がこれくらいで最大これくらいしか揺れませんよという当てにならないことを大前提にしていますので、そういうことをしっかり把握しなければならない。本来ならばここで、柏崎刈羽原発の想定の４倍から５倍の揺れになったんだから、設置許可を取り消さなければならない。ところが結局それができなかったですね、私達の力が弱くて。それができなかった。

（中越地震 M6.8：2004 年、中越沖地震 M6.8：2007 年）

≪原発の被害―柏崎刈羽は傷だらけの原発≫

トラブル、不具合が、全体で 4000。６・７号機の壁のひび割れは約 400 箇所。本当にいろんな所に傷が残っていると私たちは確信しています。ですから、柏崎刈羽原発は傷だらけの原発だと。もしこれが動

いたら、この傷が表面に出てくるだろうと思っています。当時も情報発信は大混乱をしました。敷地内の隆起、今回能登で４ｍとありますけど、60 ㎝の隆起、160 ㎝の沈降、こういうものがありまして、まあ、そんなに多くありませんけども、放射能が一部海に出ました。私たちはこれで、それ見たことかということになるんですね。ところが、これについてもいろんな人がいるんだけども、これだけの地震に遭いながら、原発は大事故にならなかったから原発は堅固なんだという人たちもいないわけではなかった。

中越沖地震と柏崎刈羽原発

地震が初めて原発を直撃した(2、3、4、7号機が運転中)

- 発生日時　2007年7月16日　午前10時13分頃
- 規模　M6.8
- 震源断層　柏崎刈羽原発沖合約20kmの海底(F-B断層)
- 被害　死者15名　負傷　約2300名　全壊1331棟　半壊　約4万3千棟　約7万5千棟被害
  避難道路半数以上不通
- 基準地震動超過　設計値を大きく上回る　最大　300ガル　限界　450ガル→基礎盤から推定する解放基盤面(1699ガル)
- 原発の被害
  トラブル・不具合　約4000カ所
  6，7号機のひび割れ　約400カ所
  設備の損傷と解明できない機器等の劣化多数→傷だらけの原発
  3号機変圧器油漏れで火災(2時間)
  情報発信大混乱
  敷地内　最大60センチ隆起　160センチ沈降
  ひび割れ、地割れ無数(直下の断層　動いたか？)
  大気・海への相当量の放射能流出

≪中越沖地震は福島の大事故とセット≫

そのことが４年後の福島の大事故に繋がっていくわけですよ。中越沖地震の２年くらい前に、国は法律に基づいて専門家を集めて津波・地震の長期予想を立てて、そして、日本の三陸沖から房総半島、東京湾の入り口あたりまで、最高 15mを超える巨大津波が襲いますよ、と。その対応をちゃんとしなさいよと、こういう風に警告を出しました。

しかし東京電力はこれを真っ向から無視をした。上から下まで全部無視をしました。しかしその後、中越沖地震が起きて、やっぱりこれは何かしなければ、地震対策、津波対策をしなければならないのではないかと、少なくとも東京電力の実務の担当者はやっぱり津波対策はしなければならない。防潮堤を作らなければならない。強化しなければならない。そういう結論になって、そして、自分たちで設計をして、これで何とか津波対策をやりましょうよと、東電のトップに上申をした。ところが東電のトップはそれを握りつぶして、何もしなかったんですね。そのためにあの 3.11、福島の大事故になったと。そういうことなんです。何でしなかったのかというと、中越沖地震で柏崎刈羽７機の原発が全部止まった。ずーと止まり続けている。ここで、さらに福島で防潮堤を作るために、或いはその他工事をするために福島第一の原発を止めたら、それは経営上もたない。こういう理由でトップは、実務担当者はやってもらいたいと上申したんだけども結局それを受け入れなかった。そういう意味で柏崎刈羽の事故と東京電力の事故は結びついている。最高裁は福島の事故について、東京電力は勿論責任あるけども国の責任はない。防潮堤を仮に作ったとしてもあの被害は避けることはできなかっただろうと、国の責任を認めませんでした。とんでもないことだと思うんですね。しかし、最高裁の中でも意見は割れまして、三浦という裁判官、元検事ですけども、防潮堤をしなかっただけではなくて、いわゆる水密化だとか、水が入らないようにいろいろ手当をするとか、或いは低い所にある重要機器を高い所に持っていくとか、そういうことを全部しなかったわけだから国の責任は免れないよ、とこういう風に言ってくれている。例の１３兆円の東電の取締役の会社に対する責任問題、１３兆円、会社に戻せと。あの中で東京地裁はものすごく厳しく当時の東電のトップの責任を、「極めて無責任で安全意識が欠落している」と。これ以上ないような厳しい批判をしていましたけども、これがまっとうな意見ではないでしょうか。いずれにいたしましても、柏崎でああいう事が起こった。その事が東京電力に大きく影響して、ついにその後福島の事故が起こってしまった。私なんかは中越沖の地震と福島のあの大被害、これはまさにセットだという風に思っています。

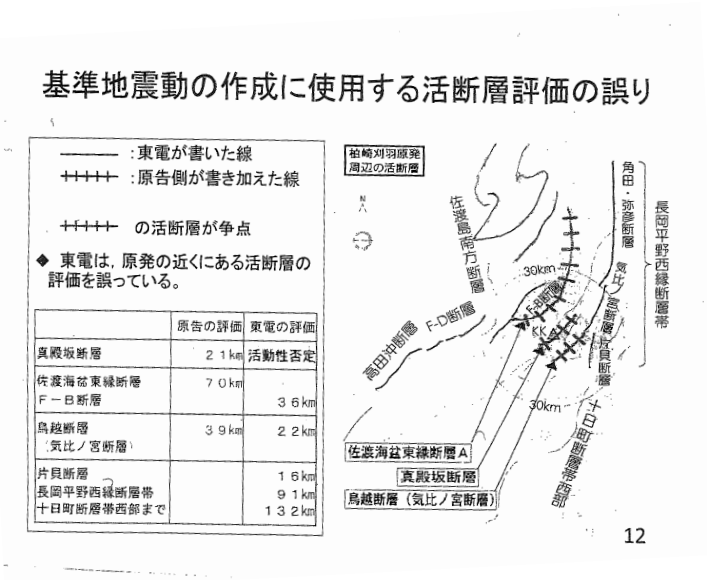
≪東電は根拠なく基準地震動を日本最大に引き上げたが―基準地震動は徹頭徹尾保守的にすべき≫

話は変わりますけども、そういう形で中越沖地震の時に東電は断層を無視し過小評価していたと。それが全部明らかになった。で、現実は柏崎刈羽は450ガルではなくて、もっと強烈な1600とか1700ガルの揺れが起こったということになりまして、東京電力の、或いは国のですね、地震動対策がデタラメだったということが明らかになった。そこで何をしたかというと、一挙に東京電力は柏崎刈羽の基準地震動を１号から４号機を2300ガル。5号、６号、７号は1209ガル。一挙に日本で一番激しく揺れる原発だというふうな基準地震動に変更したんです、これを見てお分かりのように。それ迄は450で、多少大きいけども強烈に地震動は大きいわけではないですね。それを一挙に2300ガルとか1209ガル。この１から４号と６・７号分けること自身に一体何の根拠があるんだと。全部、最低でも2300ガルにすべきではないかと、私たち裁判では主張していますけども。とにかく、普通の基準地震動から一挙に日本最大の地震動にした。

さっきも言いましたように、原発の耐震性は周辺の大体 30ｋｍくらいを目安にしながら、周辺の断層を調べて、そしてここの敷地にはこれくらいの最大の揺れが、地震動が来るだろうと言う風に想定して、それに耐えるような原発を作るという建付けになっています。ですから基準地震動を誤ると、原発そのものは滅茶苦茶になっちゃう。私たちは基準地震動は徹頭徹尾保守的に、つまり念には念を入れて安全に堅固なものとして計算しなければならないと言っているんですけども、東京電力はそんなことをすると経費がかさみ経営に影響するんで、どっかで割り切って、まあ、これ以上は来ないと割り切って、これくらいの程度で基準地震動はいいんだという風にするわけです。まず、大前提として、この敷地にどのくらいの揺れが来るなんてことは今の地震の科学の状況で分からないわけですから。できるだけ大きくしなければいけない。そのためにはまず調査をしっかり、断層の調査をやれ。これ、大前提ですよね。ところが、この間、日本の電力会社というのは調査をいい加減にやるわけですよ。柏崎刈羽もそうです。私たちは東京電力の調査は極めていい加減だと。

≪耐震安全性が不安―科学的に正しい断層調査と基準地震動の見直しを≫

さっきも言いましたように、中越沖地震が起こるまで海底の断層については東京電力は全く無視をしていた。中越沖地震が起こって初めてF－B断層という断層があるということを公表した。しかし私たちはF―B断層を認めたことは結構だけども、F－B断層というのはもっと大きな海底地震の一部でしかないんだと。佐渡海盆東縁断層という大きな断層があってその一部なんだと。これをちゃんと認めるべきだと。これについては神戸大学名誉教授の石橋先生とか、或いは変動地形の専門家たちは皆認めているんですけど、東京電力は断固として認めない。そして、国も知見がはっきりしないということで認めない。新潟県の原発の技術委員会でもさんざん議論になりました。最終的には「新たな知見を待つ」というところで打ち切られた。私たちは今回の能登半島地震でもう一度佐渡海盆東縁断層にちゃんと光を当てていただいて、そして連動というものを考慮して本当に科学的に正しい断層の調査をやっていただきたいと、今強く訴えています。そして、さらに断層調査をはっきりやるだけでなくて、それに基づいて基準地震



動をきちんと計算をしなおしていただきたいと。私たちは基準地震動というのは、揺れの最高度のものかなあと実は思っていたんですけど、そうじゃなくて、揺れ、地震動の平均値でしかないんですね。大体これくらいのものが一番起こるだろうと。その程度のものなんです。そうであれば、誤差だとかバラツキだとか不確かさ、そういうものをしっかりと考慮しなければならない。日本の断層というのはデータが非常に少ないんだから、違いが出てくることがたくさんあるんだから、そういう不確かさを十分考慮しながら、極めて保守的に作るべきだと言っているんですけども、東京電力も国も言うことを聞かない。ある程度のところで、つまり平均的な揺れの 1.5 倍から１.６倍位、これくらいのところで基準地震動を設定しているのが実務の実態のようです。私たちは最低でも平均値の４倍、或いは８倍にせよと。このままでは地震列島日本で安全な原発とは言えないんだということを強く言ってます。で、2300 ガル、一挙に日本最大の基準地震動に柏崎刈羽原発はなりましたけども、私達はそれでも過小評価だと。もっと強烈な大きな揺れが来る可能性が極めて強い。そして日本の各地の原発の基準地震動もみんなそうだ。そういう危険、不安の中に住民は置かれているんだということを訴えています。それをしないから、これからも、思いがけない時に、思いがけない地震が、思いがけない所で起きてしまうということを大変心配をしているわけです。今言いましたように、耐震安全性が一番やはり私達の不安のもとですよね。

５．東京電力は事業者としての適格性が欠如

それ以外に最近新潟で議論になっているのは、東京電力の事業者としての適格性のなさです。これはもう自民党の県議団を含めて、非常に大きな議論になっています。東京電力は言うまでもなく福島第一の大事故を起こした当事者です。そして、簡単に平気で嘘をつくんですよね。福島第一では炉心溶融を起こしました。新潟県民に対して、炉心溶融を県知事が認めろと言っても炉心溶融ではありません。炉心の損傷です。と言って嘘をずっと、２週間ほどついていた。そして当時は溶融の定義がはっきりしなかったんだという嘘を５年間位つき通した。最終的に県技術委員会で嘘を言ったことを認めたんです。平気で言うんです。しかも不祥事が数知れずある。そして最近ではテロ対策の不備が沢山あるんで、国から、規制庁から事実上の原発運転禁止措置、命令を２年間に渡って受けた。発端は他人の ID カードを使って、東電の社員が原発の心臓部迄入り込んだ。こういう事件がありました。その後規制庁が心配して、東電の柏崎刈羽原発のテロ対策はどうなっているのかというので調べましたら、あちこちで外部からの侵入者を検知する装置が故障しているというのが分かったんです。３０日以上検知できないという箇所が実に１５カ所もあるということが発覚したんです。こういうことが分かったんで、国はたまらなくなって、東京電力は原発を適切に管理する能力がないということで、２年間、核物質を動かしてはならないという処分を出しました。それが去年 12 月末にやっと解除になりました。だから、耐震性に問題があるということと東京電力には事業者としての適格性がないということ、この二つは私たちの裁判の大きな主張の柱になっています。

６．3 つの検証委員会と総括検証委員会―新潟県の特徴（運動の成果）

≪委員会の結論が出るまでは再稼働の議論はしない≫

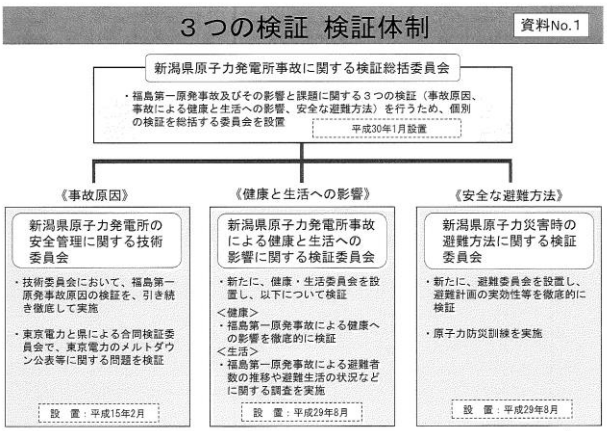
そこでちょっと時間がありませんので、新潟県のもう一つの特徴の「３つの検証」についてお話をしたいと思います。これ、新潟県の特徴なんですね。安全審査というのは全部国任せ。自治体が国とは別に原発の安全性、危険性をチェックする機関というのは、全国的にないんですけども新潟県の場合はこ

ういう検証の制度を作りました。もともとは技術委員会というのを作ったんです。東京電力が新潟県民を馬鹿にして新潟県を誤魔化すので、自民党単独の知事の時にはできなかったんだけども、自民党と一部野党系の共同推薦候補が知事になった段階で技術委員会というのを作った。そしてその後、中越沖地震があったり、或いは福島原発事故が起こった時に技術委員会を強化していった。全国から良心的な学者を集めて、国・電力会社はこう言っているけど、どうなんだという議論を県民の見ている前で公開議論させたんです。その中で、東京電力は福島事故の後に、6，7号機についてこれを再稼働する申請を規制委員会に出してきた。これは危険だという事で、県民の間でまた原発が動き出すんではないかと非常に懸念の声が起こって、そしてその運動が米山隆一さんという人を知事に押し立てたんです。新潟県で初めて全野党共闘で押し出した知事です。

この知事が、国の安全審査が6，7号機で始まったけれども、それとは別に3つの検証委員会を設ける。一つは福島の原発事故原因の徹底調査。二つ目は生活安全ということで、福島の原発事故が福島の県民の生活と健康にどんな影響をもたらしたのか。三つめは避難委員会ということで、福島のような事故が新潟で起こった時にどういう避難上の問題が出るのか。この3つを徹底的に検証してくれと。さらにそれを総括する検証委員会も設ける。この三つと総括検証委員会の結論が出ないうちは柏崎刈羽原発の再稼働の議論はしませんという政策を打ち出した。住民は喝采しましたよ。もしかすると、これを徹底的にやっていけば柏崎刈羽原発を廃炉に追いこむ事ができるんじゃないかと。こういう期待までしました。ところが米山さんが知事になって1年半くらいで米山さん、あるスキャンダルを起こして辞めちゃった。

で、その後、ものすごい接戦の末に、今の花角という人が知事になりました。しかし、花角知事は、なる時に、私は原発のない社会を目指します。再稼働の際には職を賭して県民に信を問いますと、そういう風に言わざるを得なくなった。それでかろうじて勝った。そして米山さんの路線を踏襲します。3つの検証が終わるまで再稼働の議論はしませんと県民に約束した。こういう約束があるんで、今の6，7号機は2017年、今から7年前にもう国のゴーサインは出ているのだけども、まだ地元合意が得られない。まさに新潟県民の反対、原発は嫌だという気持ちがやっぱり止めているわけですね。

V　3つの検証委員会と総括検証委員会



≪現花角知事の中央政府への忖度≫

ところで、知事は最初のうちは静かにしていたんですけども、2～3 年経ったらだんだん本性を示して、中央政府に対して忖度をするようになった。まず何をしたかというと、3つの検証委員会の中のうるさ方というか、原発に慎重な人たちを年齢を理由に再任を拒否したり、そのうちに総括検証委員長の池内さんという有名な地球物理学者、この方の総括検証委員会の持ち方について介入を始めた。どんなことをやったかというと、池内さんは自分は是非福島の事故の検証だけではなくて、その福島事故の検証結果が柏崎刈羽の安全性にどういう風に生かされているのか、そこを徹底的に検証したい。柏崎刈羽原発の安全性を総括検証委員会の場で議論したい。そして東京電力の事業者としての適格性を議論したい。安全に避難できる方法について被ばくのシュミレーションを含めて徹底的に議論したい。県民と対話を重ねたい。こういうことを言いました。これを聞いた花角知事はぶったまげましてね、急に池内委員長は頼みもしないことをやり始めたと言って、いろんな形で部下を使って、それ止めて下さい、

貴方はそういう方向でやるなら私は総括検証委員会を開きませんと言って、ずっと開かせなかった。池内さんもその論争経過を全部オープンにして大議論になった。私は池内さんの言っていることは当たり前だと思うんですよね。三つの検証で、福島のことをやるだけじゃなくて、最後は柏崎刈羽原発の再稼働を許すか許さないかの判断材料を県民に与えるわけですから。柏崎刈羽原発の安全性が担保されていますか？東京電力は事業者として適格性がありますか？避難は単に課題を摘出するだけではなくて、それをクリアーして安全に逃げる方法がちゃんと具体的に示されていますか？そのために被ばくのシュミレーションはちゃんと行われていますか？その議論をするのは検証総括委員長として当たり前じゃないですか。県民はそれを示していただいて、それをもとに県民が判断する。それがこの委員会を作った趣旨だったでしょう。そういって議論をしたんですけども、知事はとうとう開かないで、そんなこと言うんなら検証総括委員会そのものを止めますって止めちゃった。そして3つの総括検証委員会のまとめを県が、役人が単独でやっちゃったんです。だから今言いましたように柏崎刈羽の安全性、適格性、避難計画の実効性の問題、県民が一番知りたかったことを議論しないまま、3つの検証は終わってしまった。

≪市民検証委員会を立ち上げる≫

さっきも言いましたように、東京電力の運転禁止期間が去年の末に解かれた。そして、3つの検証委員会が潰されてしまった。私たち新潟県民は今後再稼働に向けた流れにどう対抗するか考えました。そして私たちは去年の秋に、新潟県が検証総括委員会を閉めたって言うなら、じゃあ市民の手で良心的な検証委員会のメンバーをもう1回集めて、帰ってきてもらって市民の手で市民検証委員会を作ろうと、これを立ち上げました。今日、実は、新潟市でその集会が 300人規模で行われています。たった今。私たちはこれからですね、前向きに、前のめりで再稼働に向かって進む新潟県に対して、私たちの市民検証委員会を立ち上げ、科学的で県民の立場に立った原発の検証を続ける。ここに広範な市民運動、そして野党共闘が下支えとして結集し、対抗していきたいと思っています。

7．能登半島地震の衝撃

そういう風に思って動き出した矢先に、この元旦の能登半島地震です。いやあ、これは本当に衝撃でした。この後、長沢先生がお話になると思うけど、二つの点ですよね。一つは、さっき皆さん新聞で見られたけど、日本海にこれだけたくさんの断層があるんですよ。しかも海底の断層というのは調査が非常に不十分なんです。もう一度日本海の、柏崎刈羽原発の向かいの海底断層をよく調べて頂きたい。前の技術委員会で、「新しい知見を待つ」なんていう中途半端な形で終わっているけども、もう一回調べて本当に大丈夫なのか調べていただきたい。能登半島ではこれまで 95ｋｍの連動した断層を電力会社は認めていたけども、150ｋｍの断層が露呈しているわけですね。今までこれだけ距離が離れていたら連動しないだろう。断層の傾斜方向が違うから連動しないだろうと言われたことが、今回全部ひっくり返っている。柏崎刈羽原発でもそういうことが起こるんじゃないか。もう一回キチンと調べてもらいたい。そうすれば今の基準地震動がもっともっと大きな強烈なものになる可能性があるだろう。そのことをちゃんとはっきりさせてもらわなければ、県民は不安でならない。もう一つは避難の問題ですよ。まさに逃げられない。屋内退避なんてできない。遠くに逃げようとしても、全部道路は寸断して遠くに逃げられない。家にも逃げ込めない、被ばくは避けられない。こんな状態で避難は成り立つのか。そもそも、地震を想定してないわけですから。国の防災指針そのものが実態に合ってないわけだから、避難計画は全面的に見直してもらわなければ困る。こういう考えが一挙に吹き出た。新潟県知事も「それはそ

うです。私も規制委員会にそう申し入れをしました。多くの市町村がそこのところをちゃんとしてもらわないと、とてもおっかなくて再稼働の話になりません。」と言った。

≪東電は核燃料の装填を強行≫

にも関わらず、この１５日に東京電力は燃料を装填。今までは原子炉から燃料棒は全部、使用済み燃料プールに移していたんですけどそれをもう一回戻して、制御棒も入れながら試験をすると、調査をすると言って、それを強行しました。強行した途端にですね、制御棒の駆動機関に不具合が出てすぐに止まりました。しかし、原因が分からんけども、とにかく、その部分をとっ替えたからまた始めますということで、また今始めていますよ。ひどい話ですよ。これだけ地震の被害、或いは地震の被害を目の前に突き付けられて、揺れの検討、とりわけ避難の点でこれだけどうしようもない事実を突きつけられている中で燃料装填をした。再稼働と別物だと言う。今日、新潟日報を私は新幹線の中で見てきたんですけど、東京電力以外の電力会社は全部、燃料装填は事前同意を得てからやっているんです。東京電力だけは、燃料装填は再稼働とは違うんだから地元同意の前でも構いません、と強硬するんです。本当に、毎日のように、住民の皆さんに誠意をもって理解を得て一つ一つ丁寧に説明します。これがいかに絵空事かって言うことがよく分かる。福島では、漁民の皆さんの理解と協力がなければいかなる海洋放出もしませんと言いながら、ALPS 処理汚染水を海洋放出した。そのやり方がそっくり残っています。だから私たちはこの柏崎刈羽原発は、原発の設備、構造に問題がある。勿論そうです。同時に運転主体の東京電力がなってない。この人たちは原発を運転する資格などないと言うわけです。

８．これからが再稼働を許さない闘いの天王山

今も言いましたように、今日、この時間に３００人規模の集会を新潟市で、市民検証委員会を開いています。私たちは、これから反対運動の中心はこの市民検証委員会だと思っています。ここに新潟県内の多様な市民団体、ここが大きく連絡会を作って結集をして、野党もこれを下支えをする。新潟県は野党共闘が強いんですよ。新潟県に６つの小選挙区があるけれども、この間の総選挙でそのうちの４つの選挙区で野党が取った。６つのうち４つで野党、まあ、立憲民主で腰はフラフラしてんだけども、議席を取っているわけなんですよ。一応建前では再稼働反対と言ってくれますので、そこはきちんと押さえながら野党共闘、そして政党は後ろに下がりながら、市民運動を前に立てながら、これから、私たちは天王山がやってくるだろうと思っています。ただまあ、知事自身は規制委員会に対して防災指針をとにかく抜本的に見直してくれと、こう言っているわけです。規制委員会は防災指針の見直しは来年の春にならないとできないと言っているわけです。常識的に考えれば来年の春までは変なことできないだろうと思うんですけど、しかし東京電力或いは今の経産省あたりは、やいのやいのとせっ

ついてくるんでしょう。ですから、これからどうするのか、私たちは市民検証委員会を軸に避難計画の実効性のなさ、デタラメを明らかにしながら、もう一度県内でタウンミーティングをずっと開いていて行きたい。場合によっては県民投票、原発の再稼働の可否を県民投票で決めろと言う直接請求をやることも考えているし、場合によっては私も所属している弁護団、もし彼らが民主主義に反する形で再

稼働に向け動き出すなら、再稼働差し止めの仮処分という事も考えざるを得ない。こういう風に思っています。あらゆる方法を追求したいと思っています。知事選挙は２年後なんですよ。もしかすると彼は、それこそ再稼働の時には県民に信を問うと言ってますので、途中で辞任して出直し選挙に出てくる可能性もある。一番いいのは県民投票が一番いいですね。再稼働認めるか認めないか一点ですから。知事選挙となるとそれ以外の政策などいろんな人的要素もみんな入りますから、ちょっと曖昧になる。いろんなバリエーションがあるけれども、これからそういう闘いになります。さっきも言いましたように、新潟には幅広い運動と野党共闘の実績があるので頑張りたいと思います。

≪良寛さんの辞世の句と樋口判決の言葉≫

最後に、私は今日ここに二つの句と言葉を皆さんにお示ししたいと思うんです。私の生まれた所（新潟県出雲崎）で、江戸時代の名僧、良寛さんがいました。良寛さんの辞世の句なんですよ、これは。取り巻きが死期が迫った良寛さんに何か形見を残してくださいと言った時に、良寛さんはこういう歌を残した。「形見とて何か残さむ　春は花　夏ホトトギス　秋はもみじ葉」。要するに、私は形見に残すものは何もありません。しかし、この越後には春になると花。花が咲き誇りますよね。夏、山にホトトギスが鳴いている。秋はもみじ一色。つまり、新潟の本当に素晴らしい美しい自然。この中に私は永遠に生きていますよ、と。新潟の自然の中に生きているんです。これを見て私のことを思い出してくださいよ。そう言って彼は死んでるわけなんですよ。これが良寛の死生観なんだけども、こういう私たちの生命の源・自然を放射能なんかで汚されてたまるかと、という思い。もう一つは福井地裁の大飯原発運転差し止めの裁判で、樋口裁判長は、今全国を行脚して、この間柏崎にも来られましたけども、樋口判決の一番最後のところで「豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活をしていることが国富であり、これを取り戻す事ができなくなることが国富の喪失であると当裁判所は考える」。原発止めたら石油を買わなきゃダメじゃないか、代金が外国に行っちゃう、国富の損失だと言う指摘を、当時電力会社はしているわけですよ。それに対して、樋口さんは、そんなのは国富ではない。国富と言うなら豊かな国土にそこに国民が根を下ろして生活することが国富だと言って、もっと大きな眼で見ろと、そういう風に言ったわけですよね。

≪福島を忘れない≫

私はやっぱり福島のことを絶対に忘れないし、ああいうことを柏崎でそして日本のどこでも絶対にやらしちゃならないという意味で、これから一年間、一所懸命頑張りたいと思っています。皆さんは、それこそ、若狭の原発を止めるということでいろいろ頑張っていますけども、さっきも言いましたように昔は越の国で一体なわけですよね。越前、越中、越後。同じ越と言うことで、新潟の方も見ていただきながら。東京電力はまさに社運をかけていますよね。だって福島第一と第二はもうないわけで、後は柏崎刈羽しかないわけです。東京では、それこそ株主訴訟に新潟の人たちもかなり参加していますけども、その意味で、生産者、消費者が一体となって頑張って。さっきも言いましたように、裏日本のまさに象徴のような、そこに犠牲を押し付けて片っ方が成り立つような関係性をひっくり返すということも含めまして、今の世の中、まさに世界的に再生可能エネルギーがいろんな意味で優位性をこれ以上ないほど発揮している中で、核のゴミ処理のメドもつかない時に、何で原発なのかと、馬鹿を言うなという思いでいっぱいです。これから新潟は、県民投票の運動に多分つき進んでいくんではないかと思います。その先は知事選です。場合によったら仮処分も視野に入れながら、みんなで支えあい頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

ご清聴ありがとうございました。

原発建設計画を阻止した仲間とつながり続けたいです

久保　きよ子

今から35年前になります。私たちは、和歌山県日高原発計画を撤回させ、日置川原発建設計画を撤回させようと闘っていた頃です。関西電力など3社の珠洲原発建設計画の反対に尽力した泉さん夫婦と出会いました。1989年4月映画「明日が消える～どうして原発～」大阪上映会をきっかけに、石川県珠洲市に住む泉さんとの交流が始まったのです。翌年1990年2月、泉滋子さんを大阪反原発講座に招き珠洲原発建設反対状況を報告していただきました。翌日には、和歌山県の日高原発建設反対で闘った民宿「波満の家」を経営する浜一己さん宅に行き、闘いの交流をおこないました。そして、この年の5月に浜さんと一緒に珠洲を訪問をし、「ふるさとを守る女の会」の人たちの前で日高現地の 10 年以上にわたる関電との闘いを詳しく話をしました。一家の家庭を守りぬく女性の底力の強さが原発を阻止できることになることを力説しました。

左端が泉さん、右端が久保さん

そして、珠洲市の人々の力強いエネルギーは、2003年12月珠洲原発計画を凍結させたのです。

あれから21年後の1月1日、珠洲原発設置計画地の直下で能登大地震が襲ったのです。もし原発が建っていれば、どうなっていたのでしょうか、ぞっとします。

避難所で過ごす泉章三さん(75)、滋子さん(72)夫婦。章三さんは「行くところがここしかないけど、いつまでいられるか」と不安を話した＝石川県珠洲市で2024年1月5日午前9時16分、久保玲撮影

避難所で過ごす泉さんご夫妻(毎日新聞1月5日)

正月以降、テレビの報道や新聞に釘つけ、泉さんの安否を探り続けました。そして、1月26日、避難所で過ごす泉さん夫婦を知り、安堵しました。無事を確認でき一安心したが、日常生活ができるのか心配しました。しかし、連絡が取れないので、いつ届くかわからないが、とにかく今必要とする物を知らせてほしいとの手紙を投函しました。

1か月余りが経った3月11日、泉さんから手紙が届きました。返信用便せん表裏3枚にびっしりと経過報告が書かれていました。

泉滋子さんは、地震で家が倒壊した中、自力で脱出、夫の章三さんは倒壊した天井と敷居に挟まり、通りかかった知人親子に引っ張り出された。「津波が来るから逃げろ」との、大声の叫び声に応え、はだしのまま宝立小中学校4階にたどり着く。その後も大きな余震が起こり、本当に怖かったと。

その後、章三さんの風邪症状が悪化し、金沢の病院に移送され、精密検査を受け、背骨が圧迫骨折と判明し約1か月入院したとのこと。

1月22日、滋子さんは、二次避難先の富山県白山リゾートホテルに。途中の道路は、地震で、隆起、亀裂などと寸断された悪路を1時間あまりあればたどりつくところ約7時間もかけて到着した。苦難のご褒美でしょうか、ホテルでの食事は実においしかったし、本当にうれしかったと。

4月13日、金沢市内の築40年のアパート（石川県の借り上げ住宅）に三次避難。全く何もない部屋に、何も持たない手ぶらで引っ越す。自宅は倒壊し、緊急避難したので、生活必需品すら持ち出せなかったと。

私たちは、この苦難を知り、とりあえず、直ぐに必要となるであろう生活用品を郵便パックに詰めこみ送りました。私の周りにいる仲間たちにも、品物を調達したり、カンパ協力していただきました。

泉さん宅でも、電気製品はいとこさんが届ける、家具は支援物質センターで探し出すことができ、カーテンなどは、仲間が送ってくれるなどで、やっとこさ、なんとか生活ができる部屋になったとのことです。しかし、ここも2年後には、引っ越さねばならないとのことです。まだまだ前途多難です。

大地震が起これば、着の身着のまま、逃げなければならず、これからも大変な日々に直面することでしょう。二人にこれからも寄り添いながら、息長くつながりたいと思います。なにせ、反原発で苦難の中、共に闘った仲間ですから。

【ベラルーシ・フクシマからの連帯のメッセージ】

ベラルーシのチェルノブイリの「移住者の会」からのメッセージ

大阪での「チェルノブイリ事故３８周年」の集いに参加された皆さん、こんにちは！

私たちはチェルノブイリ原発事故のために、強制移住をさせられました。
この体験は筆舌に尽くせないものです。
故郷を一挙に、そして永遠に奪われてしまいました。
さらに家族の絆さえ失われてしまったのです。

世界中の多くの国々で、「平和な原子力」と言われる原発によって、私たちが経験したような苦しみが繰り返される可能性があります。
地球上の人々が安全に生活できることをめざす、私たちの共通の活動は、今日、生きている私たちのためというだけでなく、私たちの子どもや孫たちのためでもあります。

私たちがめざしていることが、全て実現しますように！！

親愛なる日本の全ての友人の皆さんに、抱擁を送ります
皆さんからの長年にわたるご支援に感謝します。

ジャンナ・フィロメンコ
チェルノブイリの「移住者の会」
ミンスク、マリノフカ

「福島原発事故被害から健康と暮しを守る会」からのメッセージ

春爛漫の季節、眼に青葉が染み入るほどです。「チェルノブイリ原発事故３８年の集い」を開催するにあたり、フクシマから連帯の熱いメッセージを送ります。

「集い」への呼びかけに「地震列島日本に原発はいらない！」とメッセージを発信してあります。機を捉えた呼びかけと内容です。皆様の日頃の活動に心からの敬意を表します。また、貴団体が長い間、チェルノブイリ原発事故被害者と連帯し、核被害者を二度と作らない運動を継続し、フクシマ事故被害者と結び、ご尽力をされていることに感謝を申し上げます。

さて、連続して頻繁に起きる予測しがたい大地震による被害の深刻さは、一瞬の内に倒壊する家屋の下敷きになる圧死や火災による犠牲、津波被災、逃げまどう避難民に襲いかかる二重、三重の苦難となりました。珠洲に原発がなくて良かった。志賀原発が動いていなくて安堵はしましたが、地震の度に気にかかる原発事故への不安、私たちは、チェルノブイリ・フクシマの悲劇を二度と繰り返さない教示を確かにしました。天は、原発の再稼動はもとより、即時廃炉を憤怒をもって促しています。

大震災・原発重大事故から１３年を経ました。しかし、激震が起きる度に身体が硬直し、次の展開に準備をする習性が身についています。３．１１大震災と原発事故の恐怖は、いまだトラウマとなり神経が過敏に反応します。「こころ、からだ、くらし」の復興はいまだ渦中です。私たちは、国策による東京電力の原子力重大事故によって取り返しのつかない被害を受けました。海は汚され、山は荒廃し、田畑を耕し作物を作る恵みの喜びを奪われました。「粛々と魚を捕る」漁師の秘めた怒りや、故郷に還るに帰れない望郷の念、奪われた先祖代々の土地、長期の避難を余儀なくされ衰退する老人、「もう一度会いてーな」と妻に最後の一報を残して・・・自死、震災関連死等など、被害は続いています。原子力災害による国と東京電力の責任は免れるものではありません。国と東京電力は未来永劫、最後の最後まで責任を果たさなければなりません。

国は、「風評」と振る舞い、事実を隠蔽し、実害、被害を無きものとしています。「原発は差別によって動く」と言われますが、原発事故後も同様に放射能や賠償金によって人々が区別、差別、分断され、古き良き歴史や伝統が持つ「結」や「絆」がズタズタにされました。私たちの運動も、途方もない事故被害の大きさに逡巡し、たじろぎ、躊躇し、国や東京電力の責任を問うことよりも分断からの回避が優先されました。

しかし、国や東京電力の百万遍の嘘や宣伝も、厳然としてある事実の前では拝跪しなければなりません。ヒロシマ・ナガサキ～チェルノブイリ・フクシマの核被害の実相からは逃れられません。同時に私たちは、傷つき痛めつけられ、壊されても、立ち上がる勇気と自信、核被害を一掃する確信を持ち続けています。事実に向き合い、被害者に寄り添い、国や東京電力に責任を求めて結集し、団結し、組織する運動は不滅です。

私たちは、ヒロシマやナガサキの被爆者が自らの被爆体験を通して、核被害の救済と核廃絶を人生を賭してたたかい、人として生き続けていることから学び、フクシマの地でたたかい続ける決意をあらたにしています。貴団体の変わらぬ友情と連帯に重ねて感謝し、貴団体の益々の発展とご盛会をご祈念申し上げメッセージとします。

２０２４年　春爛漫

福島原発事故被害から健康と暮しを守る会
会長　紺野則夫
事務局長　佐藤龍彦

ダンスコアポシブルリサイタル 2024「SAKURA」

5 月 3 日、久々のバレエ、ダンスコアポシブルのリサイタルに行ってきました。最近ではポシブルの中の有志の方々中心のプロジェクト「A　WiSP」*の活動をすごいなあと思っていましたが、本日は本家のリサイタルです。

冒頭のプログラムは、白鳥の湖❤でした。「情景」「4 羽の白鳥」「3 羽の白鳥」。皆さんご存じの有名な曲。湖の場面の群舞（バレエではコールドバレエていうのかな？）は、完璧に揃っていてレベルが高く、森の奥の湖に舞い降りた白鳥の世界に引き込まれてしまいました。白鳥は伝統的な短いスカートでなく、（ポシブルオリジナルかなあ？）ふわふわの長いスカートで、本当の白鳥のイメージに近い？感じがしました。正直これだけで、バレエ鑑賞おたくの私は「キャー❗」でした。しかし、まだまだ続いて、別場面の「出会い」「ピエロ」「ナポリ」「ロシア」「スペイン」「誘惑」と大サービスでした。オデットの清楚な踊り、オディールの小悪魔的な表情、何も考えずに拍手していました。

ダンスコンサートは、冒頭、「ゆりかごのザクロ」は、現代的な歌でヒップホップ調の激しい郡舞。傷つき、暴れ、叫ぶような曲・歌。「すごいなー！若いなー！」と見ていると。あれ？こっそり？（こっそりではない？）小谷先生が混じってて、ビックリでした(笑)

「祈り」「アラビア」「パリの炎」、ハイレベルの素敵な小品、一つ一つがよかったが。新しいメンバーも多数、小さいメンバーも可愛く、中堅どころのお姉さんたちがとても上手で、特に「ジゼル」に引き込まれました❤

オリジナル「SAKURA」は何かなーと、楽しみにしていました。春夏秋冬、水、芽吹き、と、やはり小谷ワールド❤。「命」がテーマかなあと感じました。上手に踊るだけでなく、いつも実験的に表現を研究されているのを感じました。お顔を知っているアシスタントの先生たち各々がすごいのは、存じ上げてますが、個人技だけでなく郡舞として集団の表現を拡げていけるのは、すごいなあと思いつつ、、、ぼうっと最後の場面「SAKURA」を見ていて、本当に桜の花びらがハラハラと散っているような気分になり、子どもの時の近所の山の景色を思い出していました。

楽しい舞台、ありがとうございました。

リサイタルのフロアでチェルノブイリ・バザーをさせてもらいました。ポシブルのメンバーの方々が、バザーの看板を描いてくださり、可愛い「カンパ箱」も作成していただき、感謝・感謝でした。開始前や休憩時間、ダンサーやご家族、今回の舞台の指導の先生まで、次々覗いてくださり、売り上げもまずまず！(笑)(ヤッター！)で、さらに感謝でした。平和の事・チェルノブイリの事、表現者として知ったり考えたり伝えたり。ポシブルの活動にリスペクトな一日でした。

「A　WiSP」*：ダンサー・パフォーマー・ミュージシャン・画家などのアーティストたちによる「平和の種」をテーマとするプロジェクト「Along　with　seed s　f or　Peace・共に平和の種となろう」

2023 年 9 月大阪、2024 年 1 月東京公演で反響を得る。　2024 年 5 月広島公演「チェルノブイリの祈り」予定。　（由美）

新庄地区を元気にしたい！・・・「本当においしい山菜天ぷら祭り」

久しぶりにワクワクとしてその日を待った。福井・美浜町・新庄地区での天ぷら祭り。何しろ、新緑の中、採れたて・揚げたての山菜天ぷらを食べれるというのだから。

４月１３日、長沢さんの車に同行させてもらい、総勢５人。絶好の行楽日和。濃淡の緑の中、所どころに満開の桜の中、一路新庄へ。途中渋滞に巻き込まれた時は、山菜天ぷらが無くなってしまうのではないかと、ちょっと不安がよぎる。予定より１時間遅れて美浜町に入った。車が大きく左にカーブを切った途端に、ハッと息を飲んだ。フロントガラスいっぱいに大きく広がった、両側に覆いかぶさるように咲き乱れる桜・桜・桜と抜けるような青空が目に飛び込んできた。そして、その下を潜り抜けて登ると着いた。小高い場所に広場と建物。旧新庄小学校が公民館として利用されている。

受付を済ませ番号札をもらって中に入ると、グルリと待っている先客がいる。スタッフが「山菜天ぷら」のロゴ入りの赤いエプロン姿で不慣れな接客の様子が初々しい。松下さんも張り切って切り盛りされていた。待つ間、元校庭で「青い空気」を吸いながら、ふと、やはり山と緑に囲まれ、桜の咲いていた小学校の頃を懐かしく思い出した。よく山菜採もした。

カラリと揚がったタラの芽、セリ、ウド、ヨモギ、ワサビの５種の天ぷら。舌鼓を打ちながらペロリとたいらげた。もっと食べたい気分！ 地域の料亭で「天ぷら研修」を受けたと言われるほどの力の入れよう。太鼓判を押されたそうで、半端じゃない。

「新庄地区を元気にしたい」と強い思いで企画されたこのお祭り。松下さんを中心に、新庄ビレッジ振興社など地域の方々が力を合わせ開催されたそうである。聞けば、二日間で 250 名近くもの方が訪れたとのことで、すでに来年の構想も練られているのこと。美しい自然の中で、美味しい山菜天ぷら。来年も楽しみに待ちたい。そして、皆さんの力が一つになって、一歩づつ、地域を元気で活気に満ちたものに育てていこうとする意欲を感じさせられた。原発がなくても。

帰りに松下さんの経営する「どんぐり倶楽部」でも一服。随分久しぶりだったが、ここもお店はお客さんでいっぱい。すっかり地域に定着している様子がうかがわれる。随分前になるが、「救援関西」でベラルーシのチェルノブイリ事故被害者をゲストとしてお招きし交流した際に、福井を訪れて原発を見学し、どんぐり倶楽部にも寄せてもらった。その時、松下さんが、河原でピザを焼くための窯を案内してくれ、キャンプもできるとニコニコしながら説明をしてくれたのを懐かしく思い出す。

ドライバーさんの疲れをよそに、ノー天気にじょんのびさせてもらいました。ありがとうございました。

（猪又）

＊＊

カンパ・会費の納入ありがとうございました

（2024.4.8~2024.6.2）

金山次代　堀田美恵子　田原良次　加藤純子　畑中宏子　辻真弓　山本幸広　服部賢治　稲田みどり
吉崎恵美子　辰野純子　原長生　奥平純子　折口晴夫　相沢一正　碧海宏　向井千晃　村田三郎　藤田達
小林眞弓　山崎展子　太田陽子　森重子　藤田のりえ　尾崎一彦　岩部始　田岡ひろみ　曽我日出夫
岡部修子　宮地和夫　佐藤みえ　伊藤勝義　木下俊子　嶋田亜紗　大久保利子　崎山昇　久保きよ子
田中章子　振津かつみ　猪又雅子　林みどり　門林洋子　（順不動・敬称略）

≪山科和子さんを偲ぶ会のお知らせ≫

＊日時:6 月23日（日） 午後2時～

＊.場所:大阪市立長居ユースホステル／多目的室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 （TEL 06-699-5631）

最寄り駅：JR「鶴ヶ丘駅」5分 、JR「長居公園東出口10分 大阪メトロ「長居駅」1番出口10分

＊問合せ先:「偲ぶ会」実行委員会

090-3929-0053（寺澤）（寺澤さんに連絡が付きづらい時は猪又迄ご連絡下さい。072-253-4644）

山科和子さんを偲ぶ会に参加してください！

反核平和運動の継承発展のためにも！（6月23日）

山科さんが３月１３日にお亡くなりになりました。ご本人の希望で葬儀は行なわず、３月１８日に瓜破霊園で、簡単なお別れ会をしました。阪南中央病院の方や反核フェスの昔からの仲間が集まり、山科さんを偲ぶ催しを反核フェスのメンバー中心に実行委員会を4月６日に立ちあげました。

山科和子さんは長崎で被爆、戦後は原水爆反対、被ばくを許さない平和運動の一翼を担われ、小学校や中学校などで、平和学習の講演、被爆体験を語られ平和教育に大きく貢献されました。山科さんが築いてこられた反核・平和運動などを継承、発展させる一助となる偲ぶ会を取り組みたいと、考える次第です。

参加だけでもいいですが、この実行委員会の主旨に賛同し、参画して下さればありがたいです。団体、個人を募っています。 6月9日までにご連絡ください。

また、偲ぶ会の当日、山科和子さんの追悼集を披露します。６月９日までに追悼集の原稿を送っていただければと思います。字数は800字以内でお願いします。 **（寺澤のメールアドレス** terasawawataru@yahoo.co.jp**）**

実行委員会に参加される方は、6月8日18時より第3回「山科和子さんを偲ぶ会」実行委員会を東住吉会館で行います。

「山科和子さんを偲ぶ会」実行委員会（寺澤090-3929-0053）

朝日新聞（夕刊） 2024年（令和6年）5月11日（土） 第3種郵便物認可

被爆者、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西代表 山科（やましな） 和子（かずこ） さん

「私の使命」世界でヒバク語る

4月21日に大阪市内で開かれた「チェルノブイリ原発事故38年の集い」の冒頭、参加者全員で黙祷した。「救援関西」の振津かつみさん（64）は「これ以上ヒバクシャをつくらないで」という山科さんの生前の言葉を振り返った。

亡くなる2週間前、支援者が車いすの山科さんを梅が咲く長居公園の散歩に連れ出したときだ。かつて国連に行ったときの写真を見て「あらー、森滝先生」と声を上げた。

「核と人類は共存できない」。そう主張して原水爆禁止運動を率いた広島の被爆者で哲学者の森滝市郎さん（1901～94）との出会いが、人生を変えた。1982年、ニューヨークで開かれた第2回国連軍縮特別総会に合わせ渡米し、世界各地から集まった市民らと行進した。

その時、森滝さんにこう声をかけられた。「山科さん、死んでも当たり前の光線を生き抜いたんだから、原爆のことを後世に語るのがあなたの使命だよ。これまで生きてきたあなたの運命を神様が支えてくださったのだから」

23歳の時に長崎で被爆。何度も大病を患い、体の不調や被爆者差別を「明けない夜はない」と乗り越えた。その言葉を胸に、「生き残った被爆者の使命」を果たすべく、国内外で証言を重ねた。そして、「『ヒバク』は私の原点です」との信条が、チェルノブイリや福島の原発事故被害者への支援活動につながる。

100歳になる直前、記者にこう振り返った。「できるだけ英語でしゃべった。言葉を継ぎ足し継ぎ足ししながらも、英語でね」。世界を回って訴え続けてきたことへの自負が細い体から伝わってきた。

反核フェス実行委員会や救援関西をはじめ様々な団体が合同で6月23日に「偲ぶ会」を開く。多くの仲間の「心の支え」だった証しだ。

（編集委員・副島英樹）

1992年3月、発足間もない「救援関西」の仲間と山科さん（左から3人目）＝救援関西提供

3月13日死去（肺炎） 102歳

2024年４月26日

関西電力株式会社取締役・代表執行役社長　　森　望　様

4･26 チェルノブイリ原発重大事故から38年、フクシマ原発重大事故から13年
関西電力への申し入れ

私たちは４月21日、26日の「チェルノブイリの日」を前に、新潟からゲストを招き「「チェルノブイリ原発事故３８年の集い／地震列島日本に原発はいらない！」の集いを持ちました。元日に起きた能登半島地震を目の当たりにし、お話を聞き、改めて「原発事故をこれ以上繰り返してはならない」、地震国の日本で「原発即時停止！再稼働反対」の思いを強くしました。

私たちの交流している、事故による放射能汚染のために移住を強制され、二度と故郷に帰れないベラルーシのチェルノブイリ・ヒバクシャは訴えます。「『核の平和利用』による原発が引き起こした大惨事。私たちの当たり前の生活を破壊し、私達の健康、子供たちや孫たちの健康に危害を及ぼしている」と。

チェルノブイリ原発事故から３８年、東京電力福島第一原発事故から１３年。二つの重大事故は、多くの人々を被ばくさせ様々な基本的人権を侵害しています。人々は生業を奪われ、故郷を奪われ、「普通の生活」が奪われました。「原発事故さえなければ・・・」は、被害者の共通の想いです。チェルノブイリ被災地では今も放射能汚染が続き、人々は放射能と隣り合わせの生活を強いられています。福島では高線量のためにデブリの取り出しなど困難を極め、事故の収束・廃炉作業は見通しさえたっていません。事故炉の安全管理と廃炉には100余年も要します。ひとたび原発が重大事故を起こせば、放射能汚染は長期にわたり、取り返しのつかない被害が広範囲に及ぶことは厳しい現実です。

貴社は、実現性のない「使用済燃料対策ロードマップ」を示し、2023 年末に県外に中間貯蔵施設の立地点を確定できなければ美浜３号、高浜１・２号機を止めるという福井県との約束を破りました。しかし、数年先にはそれらの老朽原発の使用済燃料プールが満杯となり原発の運転ができなくなる事態を前に、窮余の策として敷地内に乾式貯蔵施設を作り、この状況をなんとか乗り切ろうとしています。そして、老朽原発の６０年運転を強行しようとしています。

それは処理・処分のできない「核のゴミ」をさらに増やして子孫への負の遺産を増やします。使用済燃料はこれ以上生み出さない事が先決であり、どこにも押し付けてはなりません。

また、老朽原発を運転し続けることにより重大事故の危険性が高まります。事故によって故郷を奪われる人がないように、健康不安をかかえて生き続ける苦しみを受けることがないように、これ以上、事故被害者を生み出してはなりません。

貴社は、きっぱりと原発を止めて下さい。原発依存体質から脱却し「脱原発・脱石炭」へ転換し、再生可能エネルギーを推進して下さい。

以下の通り、強く申し入れます。

１．「使用済燃料対策ロードマップ」を撤回し、美浜・大飯・高浜原発敷地内への乾式貯蔵施設設置計画を撤回して下さい。
２．４度目の約束違反を真摯に反省し、約束通り、運転開始40年を超えた老朽３原発を廃炉にして下さい。
３．制御棒落下、配管のひび割れ放置や蒸気発生器細管の減肉など老劣化の進む高浜３・４号と大飯３・４号を廃炉にして下さい。高浜３・４号の40年超運転認可申請を取り下げて下さい。
４．むつ市や上関町への使用済燃料中間貯蔵押しつけを断念し、使用済燃料をこれ以上生み出さないで下さい。
５．プルサーマルを即刻中止してください。プルトニウム利用を断念し、これ以上、MOX 燃料の発注・輸送・輸入をしないで下さい。
6.「送配電会社の所有権分離」と「発電会社の所有権分離」を行い、新電力との公平な競争環境を保障して下さい。
7. 老朽原発の延命を断念し、原発依存の経営方針を「脱原発・脱石炭」、「再エネ拡大・優先接続・優先給電」へ大転換して下さい。
8. 廃炉後は大量の労働者被ばくを伴う早期の解体撤去は行わず、そのまま密閉管理し、100 年程度の安全貯蔵期間をとって下さい。

以上

チェルノブイリ原発事故３８年の集い～地震列島に原発はいらない！～参加者一同

♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣お知らせ◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠◇♣♡♠

＊10団体呼びかけ 政府交渉

福島原発事故避難区域等の「医療費等、減免措置」継続と、国の責任による原発事故被害者への「健康手帳」交付等、生涯にわたる医療・健康保障を求めます

日時：6月21日（金）午後1時～
場所：：参議院議員会館 Ｂ１０９会議室（地下１階）
問い合わせ：振津（090-3941-6612） e-mail:cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

政府は昨年度から福島原発事故避難区域等の「医療費等、減免措置」の段階的削除・廃止を開始しました。そして被害者の反対の声を聞こうともせず、今年度もさらに範囲を広げて削減を強行しました。これは「国策の被害者」である原発事故被害者に「最後の最後まで、国が前面に立ち責任を持って対応」するという「基本原則」に真っ向から反する、許しがたいことです。
私たちは１０団体は、昨年に引き続き、標記の課題で政府交渉（厚労省・環境省・復興庁）を６月２１日に行います。多くの皆さんの参加を呼びかけます。
また、交渉に先立って、「１０団体」の一つである「福島原発事故被害から健康と暮しを守る会」呼びかけの全国署名を提出します。署名へのご協力もお願いします。
（公開質問状及び署名用紙は「救援関西」の HP にアップしていますので、ご覧ください。）

＊山科さんを偲ぶ会 （p22参照）

日時：6月２３日（日） 午後２時～
場所：大阪市立長居ユースホステル／多目的室
問合せ：「偲ぶ会」実行委員会 090-3929-0053（寺澤）

＝ジュラーヴリ137号・目次＝

報告：チェルノブイリ原発事故 38 年の集い・・・・ ・・p.1
お話：地震列島日本に原発はいらない！・・・・・・・・・p.3
原発建設計画を阻止した仲間とつながり続けたいです・・p.17
ベラルーシ・福島からのメッセージ・・・・・・・・・・p.18
ダンスコアポシブルリサイタル 2024「SAKURA」・・・ p.20
新庄地区を元気にしたい！「本当美味しい天ぷら祭り」・p.21
山科和子さんを偲ぶ会（案内）・・・・・・・・・・・・p.22
チェルノブイリの日にちなみ関西電力への申し入れ・・・p.23
お知らせなど・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・ p.24

ニュース発行：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

連絡先：〒591-8021 堺市北区新金岡町 1-3-15-102 猪又方
Tel：０７２-２５３－４６４４
e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp
郵便振替 ： ００９１０－２―３２７５２
口座名 ：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西